

神戸市西区におけるメスアカケバエの追加記録

池田健一

メスアカケバエ *Bibio japonica* (Motschulsky, 1866) は雌では中胸背板と腹部が赤褐色であることで特徴づけられる種で、成虫は3-6月に出現する (Hardy & Takahashi, 1960)。兵庫県では「少数ながら近年でも確認され、地域によっては多産する可能性がある」として「注目すべき双翅目」の1種として挙げられている (吉田・八木, 2012)。兵庫県内では尼崎市、神戸市、加古川市で記録がある (吉田, 2015)。

筆者は2006年4月29日15時頃、神戸市西区押部谷町福住で本種♀を撮影したのでここに報告する。明石川の河川敷に生えたクズの茎に静止した所を撮影した。本種は西区では2012年に押部谷町木津で♂個体の記録がある (吉田, 2015)。

○引用文献

Hardy, D.E. & Takahashi, M., 1960. Revision of the Japanese Bibionidae (Diptera, Nematocera). *Pacific Insects*, 2(4): 383-449.

吉田浩史, 2015. 兵庫県の双翅目 8. ケバエ科・トゲナシケバエ科. はなあぶ, 39: 77-84.

吉田浩史・八木剛, 2012. 兵庫県の注目すべき双翅目. きべりはむし, 34(2): 12-25.

(Kenichi IKEDA 生態情報)



図1 神戸市西区押部谷町福住, 2006年4月29日.

サツマヒメカマキリを京都府(京都市)で採集

今邑宏樹

筆者は、サツマヒメカマキリ (*Acromantis satsumensis* Matsumura, 1913) を京都府京都市で採集したので、京都府初記録として報告する (図1)。

<採集データ>

サツマヒメカマキリ (*Acromantis satsumensis* Matsumura, 1913)

2020年12月19日 幼虫5頭 (雌4令16mm黒褐色, 雌4令15mm赤褐色, 雄4令18mm褐色, 雌4令18mm茶褐色, 雌4令茶褐色17mm) 京都市右京区

<発見の経過>

*初発見 (情報)

2020年12月15日、京都市右京区在住の池上拓人氏より自宅庭で摘んだハーブに本種と思われるカマキリ幼虫を採集したとの情報を得た。送信画像を見ると、本種の形態的特徴である「頭頂部の角状突起、複眼の縞模様、後腿脚内側前方のひれ状の突起 (図2)」が確認され本種であると判断した。また、幼虫越冬するという本種の生態的特徴から考えても発見種はサツマヒメカマキリだと確信した。

*追調査

2020年12月19日午前11時から14時まで、京都市右京区の池上氏自宅に隣接する丘陵地を探索した。

<遊歩道沿いは日当たりがよく、常緑広葉樹やコナラなどの落葉広葉樹が混生した雑木林であった。>

その結果、本種幼虫5頭 (雄1頭, 雌4頭) を採集した。カマキリはいずれも木の枝やシダの葉に引っかかった枯葉をビーティングして得られた。4頭はツバキの枝に絡まった枯葉やクモの巣の塊から得た。1頭はシダに絡まる枯葉から得た。

2021年1月5日現在、5頭とも青少年科学センターにて飼育中。

<考察>

本種の分布域は、本州南西部、四国、九州、南西諸島であるとされている (岡田, 2008)。今回の発見については、人為的な持ち込みによる可能性も否定できないが、近年隣接する兵庫県や大阪府での採集記録があり京都市内での発見もその連続ではないかと推測され、分布域を拡大し北上傾向を示しているように思われた。

<課題>

今後の課題として、現地を起点にさらに調査地を拡大し、京都市における本種の分布域と動向を詳しく調べたい。

<謝辞>

本報告において、本種同定等に関わりご指導、ご助言賜りました京都教育大学名誉教授松良俊明先生、京都大学教授松浦健二先生、京都大学大学院生小西堯生氏、箕面公園昆虫館館長中峰空氏、京都府内の第一発見者でありご連絡くださった池上拓人氏、追調査の採集でご協力頂いた京都市青少年科学センター主任主事辻礼史先生には心より感謝を申し上げます。

○文献

日本直翅類学会（編），2016. 日本産直翅類標準図鑑. 384pp. 学研プラス，東京.
岡田正哉，2008. 昆虫ハンターカマキリのすべて. 63pp. トンボ出版，大阪.

(Hiroki IMAMURA 京都市青少年科学センター
指導室 生物領域)



図1 サツマヒメカマキリの幼虫 京都市右京区, 2020年12月19日.



図2 後腿脚内側前方に見えるひれ状の突起.

兵庫県淡路市でホシミスジの2例目を確認

矢口芽生

ホシミスジ *Neptis pryeri* は、ユキヤナギやコデマリなどが庭先や公園に植栽されたことにより、人為的に作られた環境にも進出し定着しつつあるタテハチョウ科の一種で本州、四国、九州に分布するが、淡路島には分布していなかった。しかし、2003年に淡路市岩屋で植栽されたユキヤナギから幼虫と蛹の羽化殻が確認され（伊藤2004）、2004年には洲本市五色町都志と南あわじ市沖ノ島で確認されるなど、人為的要因により淡路島に分布を拡大している。



図 淡路市産ホシミスジ

筆者は、2020年に兵庫県淡路市の岩屋以外で本種の成虫を確認したため、報告する。4地点全てにユキヤナギが植栽されていたことから、このユキヤナギに付着して侵入したものとする。

【採集データ】

確認場所：兵庫県淡路市野島常盤

確認日：2020年6月15日，7月15日，8月15日，8月30日

確認場所：兵庫県淡路市富島

確認日：2020年5月21日

確認場所：兵庫県淡路市多賀

確認日：2020年9月29日

確認場所：兵庫県淡路市生穂新島

確認日：2020年5月25日

○参考文献

伊藤寿，2004. 兵庫県淡路島でホシミスジを採集. 蝶研フィールド, 19 (2) : 28.

(Mei YAGUCHI 東京都練馬区)